

令和4年度

子供の読書環境に関する実態調査の結果について

1 調査の目的

第4次岡山県子ども読書活動推進計画期間における現状把握や、不読率（1か月の読書数が0冊の子供の割合）の低減に向けた効果的な取組の検討のため、小・中学生、高校生の読書活動に関する実態調査を実施する。

2 調査の対象

県内の小・中学校及び高等学校（私立も含む。）に在籍する生徒

3 調査の時期

令和4年9月5日から10月7日まで

4 調査の方法

県内の小・中学校及び中等教育学校（前期課程）、高等学校の中から53校を抽出し、抽出された学校において、調査指定学年の中から1学級を選び調査を実施。

〈調査への回答者数〉

小学校	519人
中学校及び中等教育学校（前期課程）	520人
高等学校	427人

5 調査の項目

1か月の読書数等11問

令和5年3月

岡山県教育庁生涯学習課

調査結果の概要

1 読書の環境

① 不読率(1か月の間に1冊も本を読まなかった子供の割合)※マンガ、新聞、雑誌は除く。

不読率は小学生 4.6%、中学生 9.8%、高校生 45.9%である。

② 読書の傾向

小・中学生、高校生全てに共通して、電子書籍より、紙の書籍を読んでいる割合が高い。また、紙の書籍と電子書籍共通して、一番読まれている割合が高いのはマンガである。

③ 読書をする日

中学生は、他の曜日に比べて土・日曜日に読書をする割合が顕著に低い。

④ 読書をする場所

読書(マンガ、新聞、雑誌を除く。)をする場所については、「家や友達の家」が、小学生 36.7%、中学生 41.3%、高校生 40.9%と共通して割合が一番高く、「地域の図書館(図書室)・公民館の図書コーナー」は、小・中学生、高校生に共通して、10%以下と低い割合であった。

一方、「学校の図書館(図書室)」は、小学生 23.7%、中学生 22.1%、高校生 11.2%と、地域の図書館(図書室)より多い割合で利用されている。

⑤ 本・絵本を手に入れる方法

本・絵本を手に入れる方法については、小学生は、「学校で借りる」割合が一番高く、中学生、高校生は共通して「お店やインターネットで買う」の割合が「学校で借りる」割合よりも高い。

⑥ 電子書籍の利用経験と電子図書館への印象

電子書籍の利用経験は、小学生では3割程度だが、中学生、高校生では5割を超えている。また電子図書館利用のニーズは小・中学生、高校生と共通して5割を超えている。

2 読書の意識

小・中学生、高校生に共通して、読書が「好き」「どちらかというが好き」と答えた割合は過半数を超えており、読書に肯定的な割合は否定的な割合より高い。

① 読書の好き・嫌いに見た読書率

小・中学生、高校生に共通して、読書が「どちらかという嫌い」「嫌い」と答えた児童・生徒の直近1カ月の読書率は、「好き」、「どちらかという好き」と答えた児童・生徒の読書率より低い、中でも高校生は顕著に低い。

② 読書の好き・嫌いに見た読書の傾向

電子書籍では、小・中学生、高校生に共通して、読書の好き・嫌いに関わらず、一番読まれているのはマンガである。

紙の書籍でも同様の傾向はあるが、唯一、読書が「好き」「どちらかという好き」と答えた中学生においてはマンガより文字だけが書かれた本が読まれる割合が高くなっている。

③ 読書の好き・嫌いに見た体験活動

小・中学生、高校生に共通して、読書が「どちらかという嫌い」「嫌い」と答えた児童・生徒では、「好き」「どちらかという好き」と答えた児童・生徒より「特に何も無い」と答える割合が高い。

小学生では、読書が「好き」「どちらかという好き」と答えた児童・生徒より、「どちらかという嫌い」「嫌い」と答えた児童・生徒の方が、「家族などに本や絵本、新聞などを読むようにすすめられた」「家族などと読んだ本や絵本の感想について話し合った」体験があると回答した割合が高かった。

3 読書をしない理由と読書をする理由

① 読書をしない理由

直近1か月に1冊も本を読んでいないと答えた小・中学生及び高校生の読書をしない理由は、共通して、「他にしたいことがあるから」、「今、読みたい本・絵本がないから」の順に割合が高い。

次いで、小・中学生では、「文章や文字を読むことが苦手だから」、高校生では、「本や絵本を読む時間がないから」という理由になっている。

② 読書の好き・嫌いに見た読書の理由

小・中学生、高校生に共通して、読書が好きか嫌いかに関わらず、「おもしろいから・楽しいから」「読みたい本があるから」と答えた割合が高い。

小学生では、「将来の役に立つから」「くわしい知識が身につくから」「今の勉強やくらしに役立つから」と回答する割合が、読書嫌いは読書好きに比べて顕著に低く、逆に、「家の人や先生がすすめるから」と回答する割合は読書嫌いの方が顕著に高かった。また、中学生では、「友達が読むから」と回答する割合が、読書嫌いは読書好きに比べて顕著に高いという傾向が見られた。

実態調査を踏まえた今後の取組の方向性

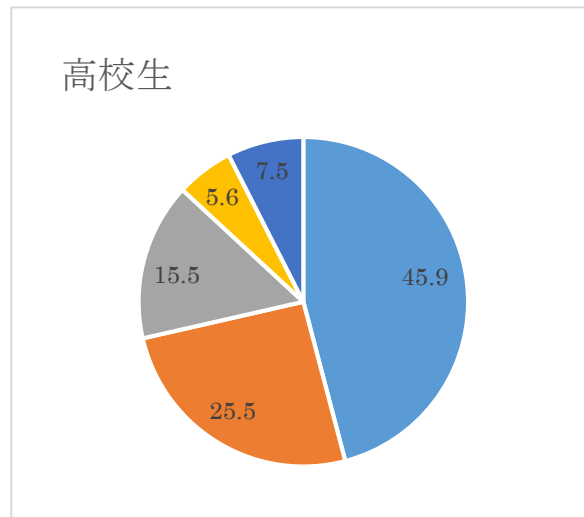
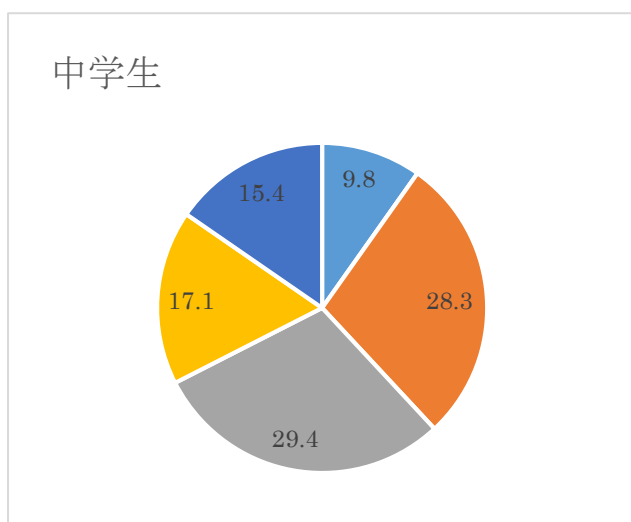
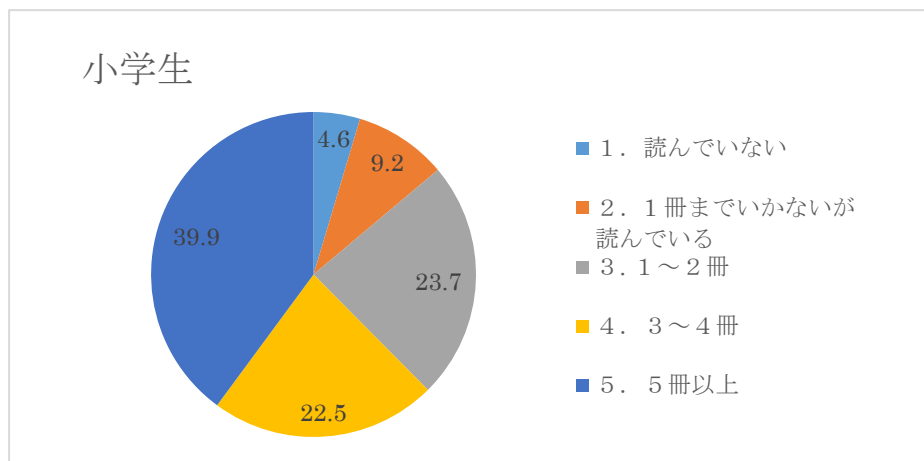
- 1 学校での読書活動の促進（継続）
 - ・学校での読書活動時間の確保の推奨（例：朝読書や一斉読書）
 - ・授業における学校図書館の活用 等
- 2 学校の読書環境の充実のための支援（継続）
 - ・公共図書館における学校図書館支援サービスの充実 等
- 3 学校間及び学校と公共図書館の連携の推進（継続）
 - ・岡山県子ども読書活動推進連絡会における実践研究 等
- 4 子供の視点に立った読書活動の推進（継続）
 - ・もっとおもしろ読書事典、好きな本総選挙 等
- 5 発達段階に応じた取組の充実（一部新規）
 - ・学校種間の移行段階に着目した取組（新規）
 - ・高校生が主体的に読書に興味関心を持てるような取組の充実（新規）
 - ・読書に興味がない子供が親しみやすい講座の充実
 - ・体験活動等と連動した取組の充実 等
- 6 継続的な実態把握と分析（継続）
 - ・小・中学生、高校生への不読率の調査
 - ・読書環境に関する実態把握 等

1 読書の環境

① 不読率

1か月の間に1冊も本を読まなかった子供の割合は、小学生 4.6%、中学生 9.8%、高校生45.9%である。

●1か月の読書数(マンガ・新聞・雑誌を除く。)〈本調査の回答者全員が対象〉



【参考】全国の不読率の推移

※ 全国学校図書館協議会 学校読書読査

	2017 H29	2018 H30	2019 R元	2021 R3	2022 R4
小学生(4-6年生)	5.6	8.1	6.8	5.5	6.4
中学生	15.0	15.3	12.5	10.1	18.6
高校生	50.4	55.8	55.3	49.8	51.1

※ 2020年(R2年度)は調査中止

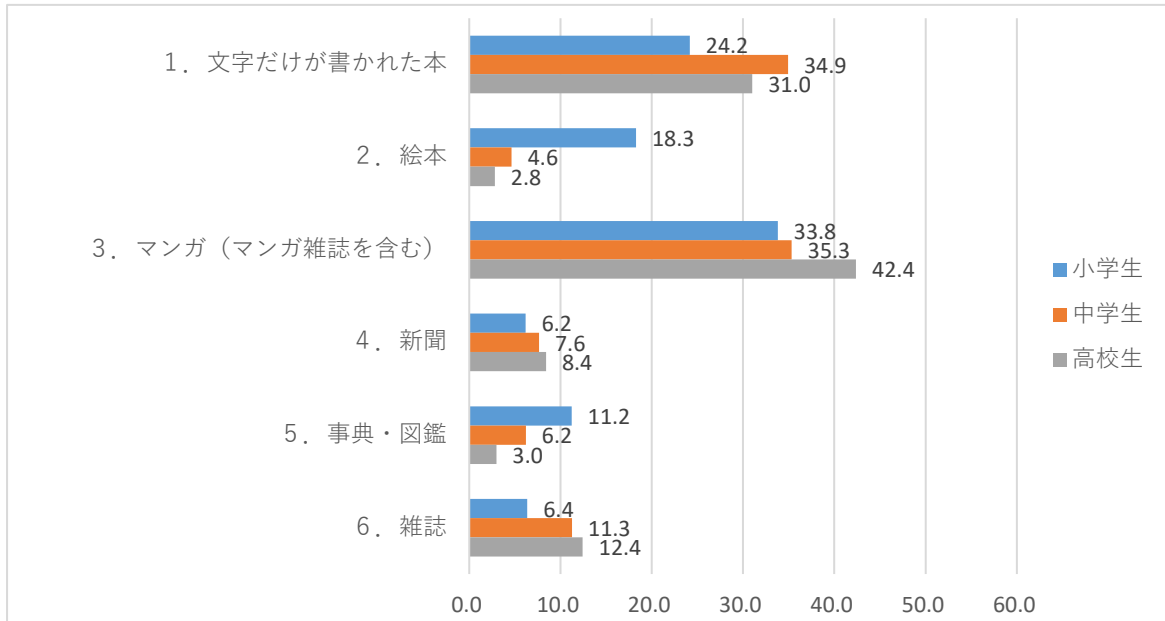
② 読書の傾向

最近1か月に「紙の書籍」を読んだ子供の割合は、小学生 97.8%、中学生 96.2%、高校生 85%であった。「電子書籍」を読んだ割合は、小学生 75.8%、中学生 79.3%、高校生 78.5%であった。

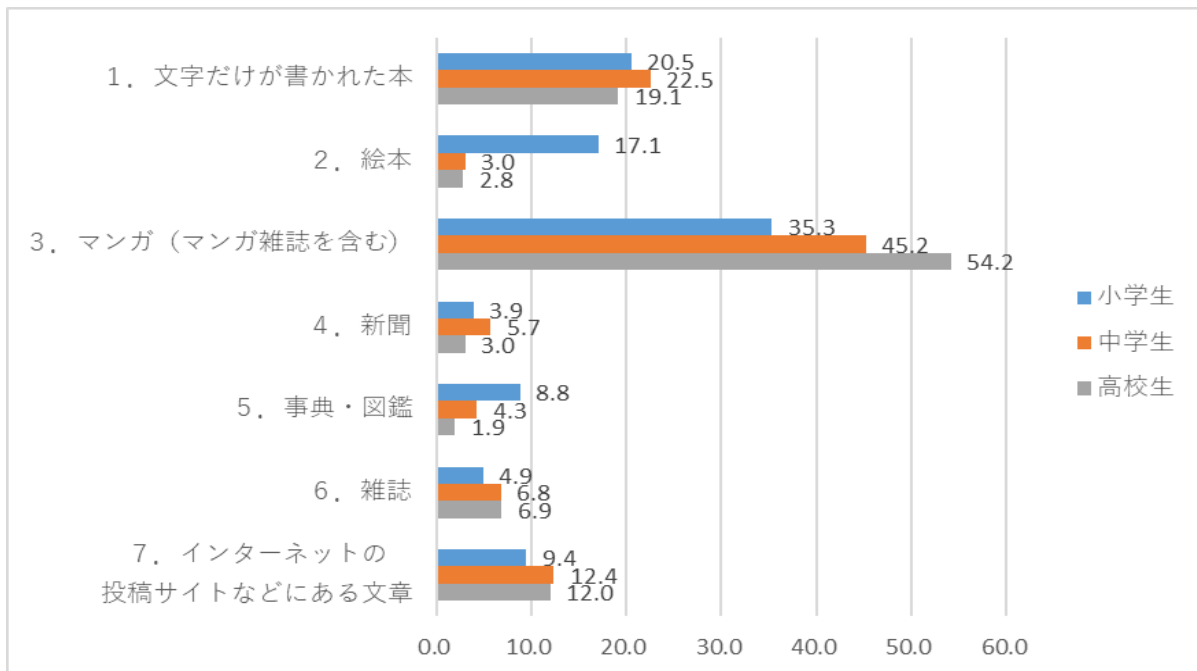
「紙の書籍」「電子書籍」いずれも、小・中学生、高校生全てに共通して一番読まれているものはマンガ(マンガ雑誌を含む。)である。

●最近1か月の読書の傾向<複数回答>

紙の書籍(%)



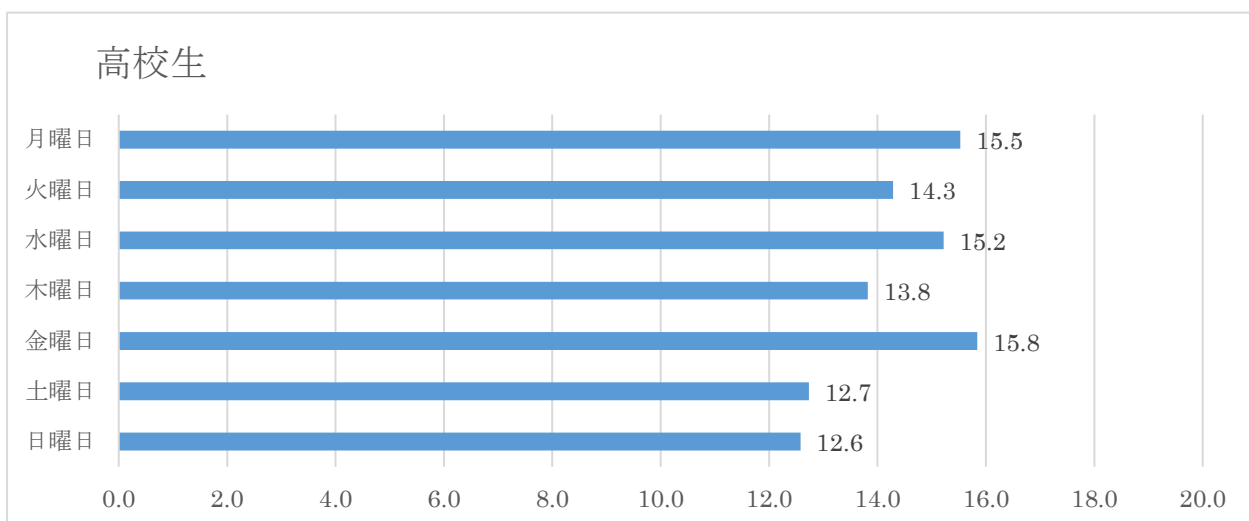
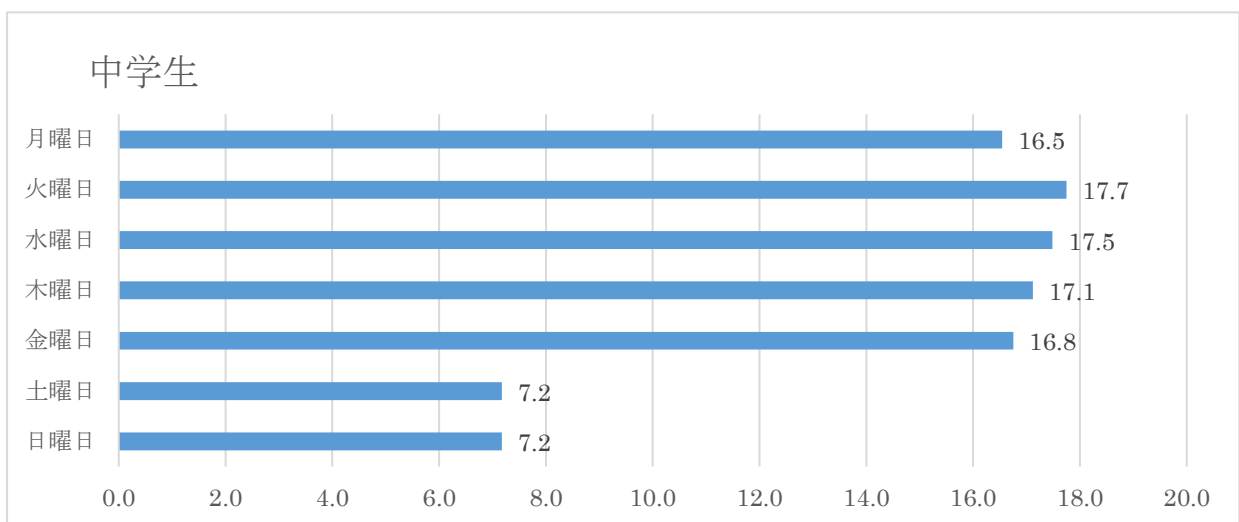
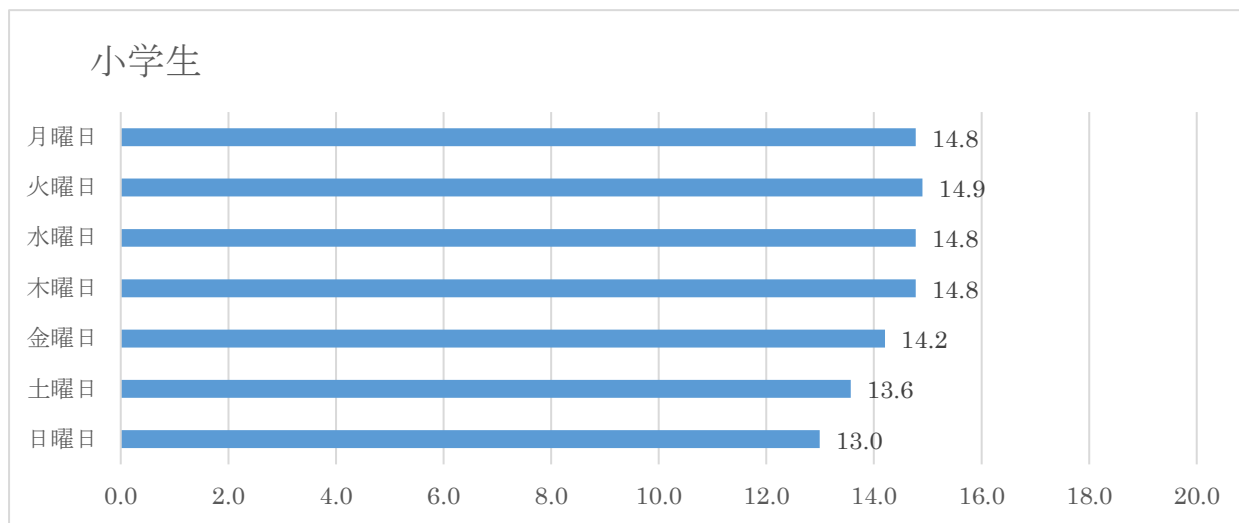
電子書籍(%)



③読書をする日

小・中学生及び高校生のいずれも、土・日曜日がその他の曜日と比べて読書をする割合が低い傾向が見られるが、特に中学生において、他の曜日との割合の差が大きい。

●直近1週間で読書をした日(マンガ、新聞、雑誌を除く。)(%)

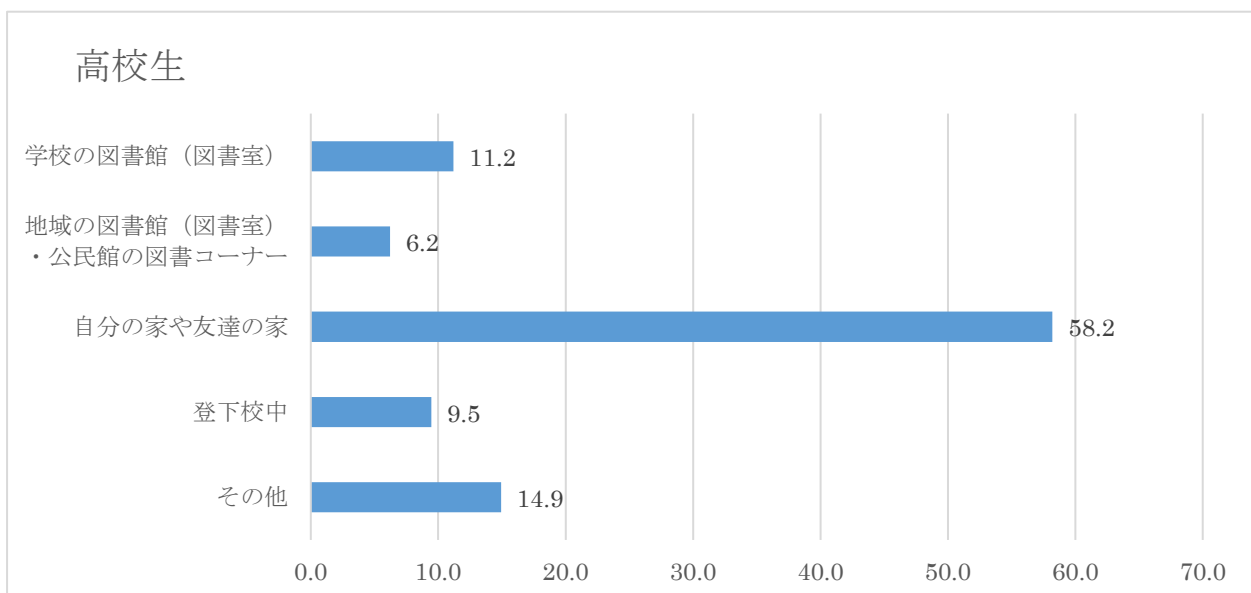
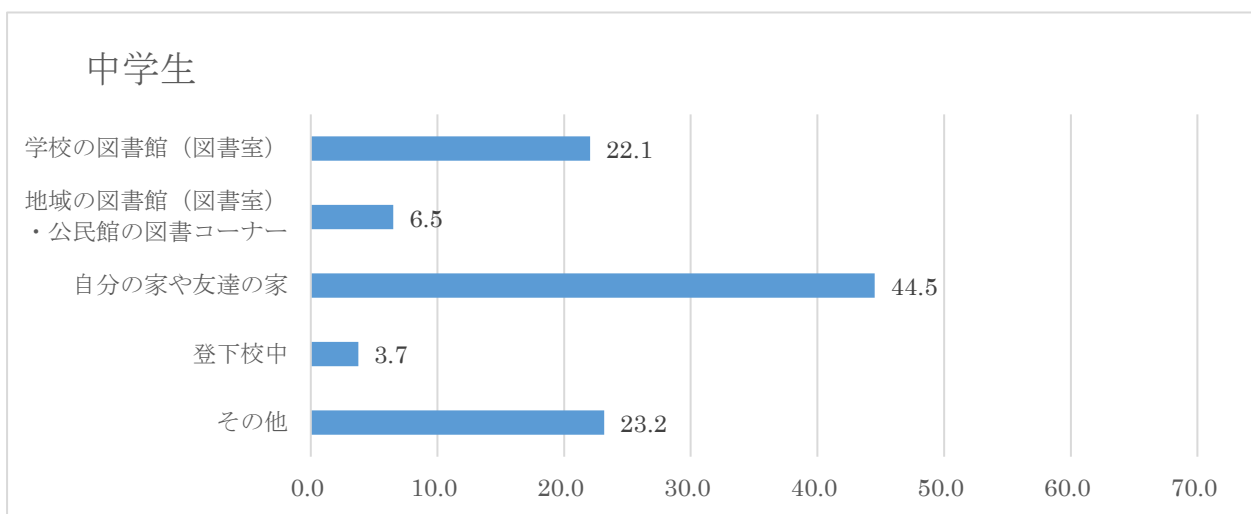
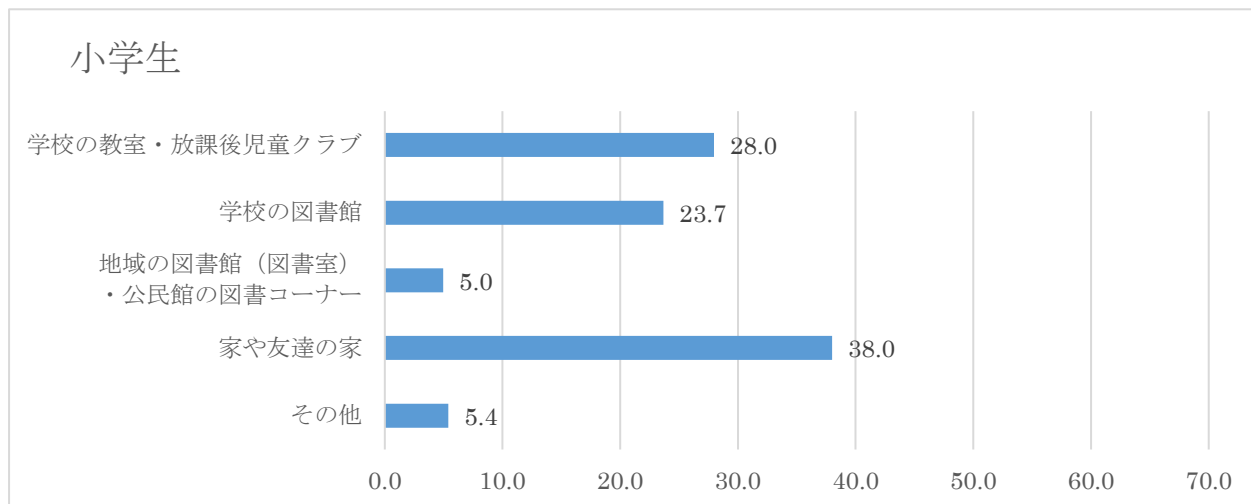


④ 読書をする場所

小学生から高校生まで共通して読書（マンガ、新聞、雑誌を除く。）をする場所の割合が高いのは、「家や友達の家」で、小学生 38.0%、中学生 44.5%、高校生 58.2%であった。

小・中学生、高校生に共通して、「地域の図書館・公民館の図書コーナー」で読書する割合は10%以下と低い一方、「学校の図書館（図書室）」は、小学生 23.7%、中学生 22.1%、高校生 11.2%と、地域の図書館（図書室）より多い割合で利用されている。

● 読書する場所（マンガ、新聞、雑誌を除く。）（%）〈複数回答（2つまで）〉

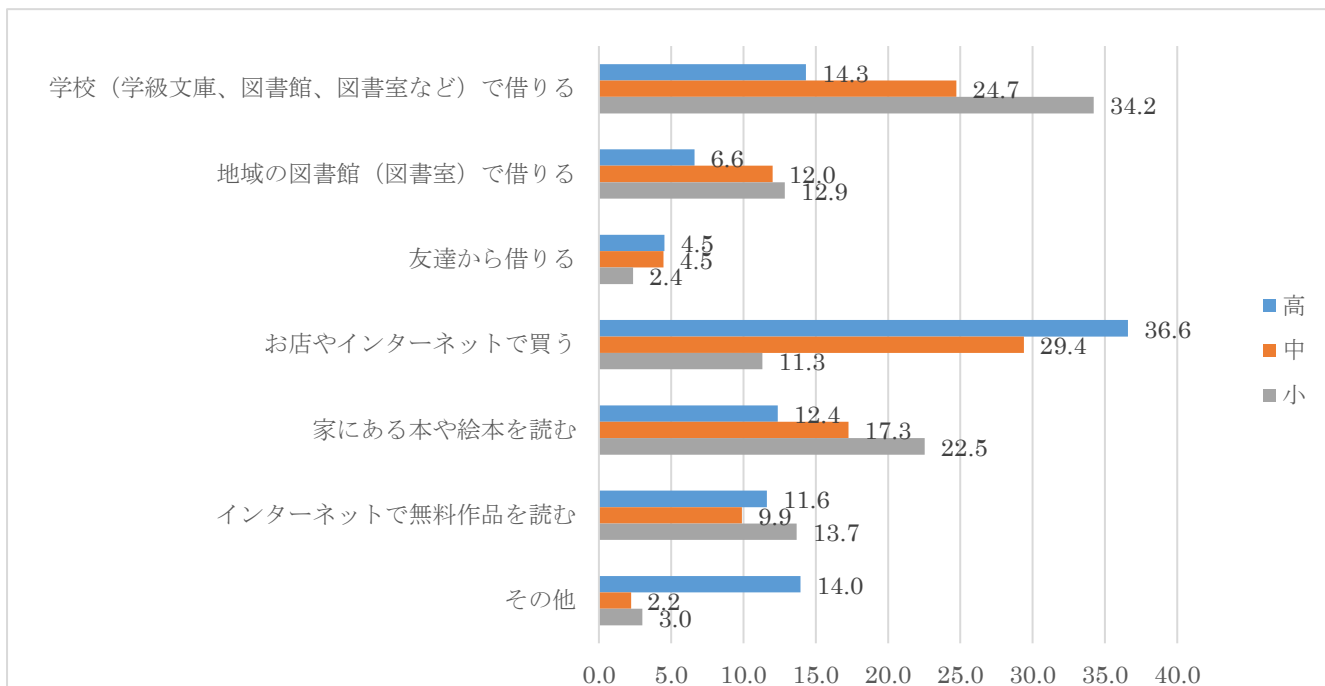


⑤ 本・絵本を手に入れる方法

小学生が本・絵本を手に入れる方法の割合は、「学校（学級文庫、図書館、図書室など）で借りる」34.2%、次いで、「家にある本や絵本を読む」22.5%の割合の順に高い。

中学生、高校生では、「お店やインターネットで買う」が中学生 29.4%、高校生 36.6%、と一番多く、次いで、「学校（学級文庫、図書館、図書室など）で借りる」が中学生 24.7%、高校生 14.3%となっている。

●本・絵本を手に入れる方法(%)〈複数回答(2つまで)〉

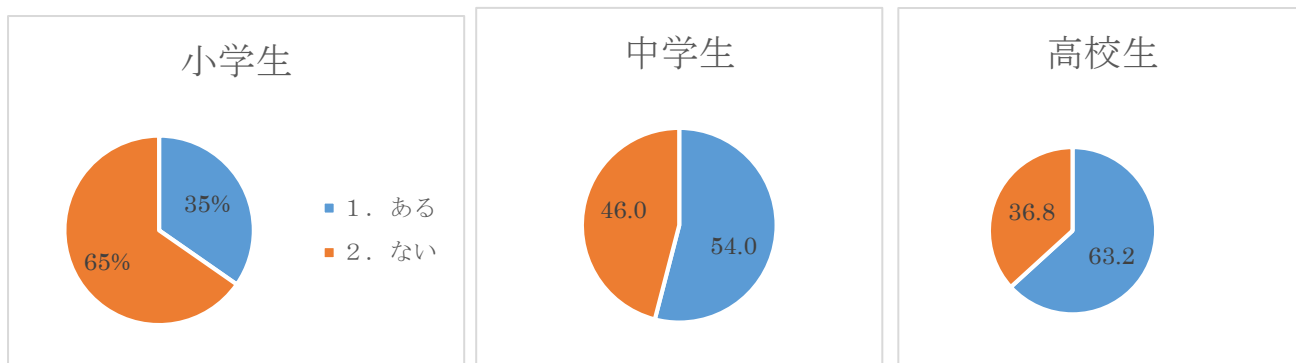


⑥電子書籍の利用経験と電子図書館への印象

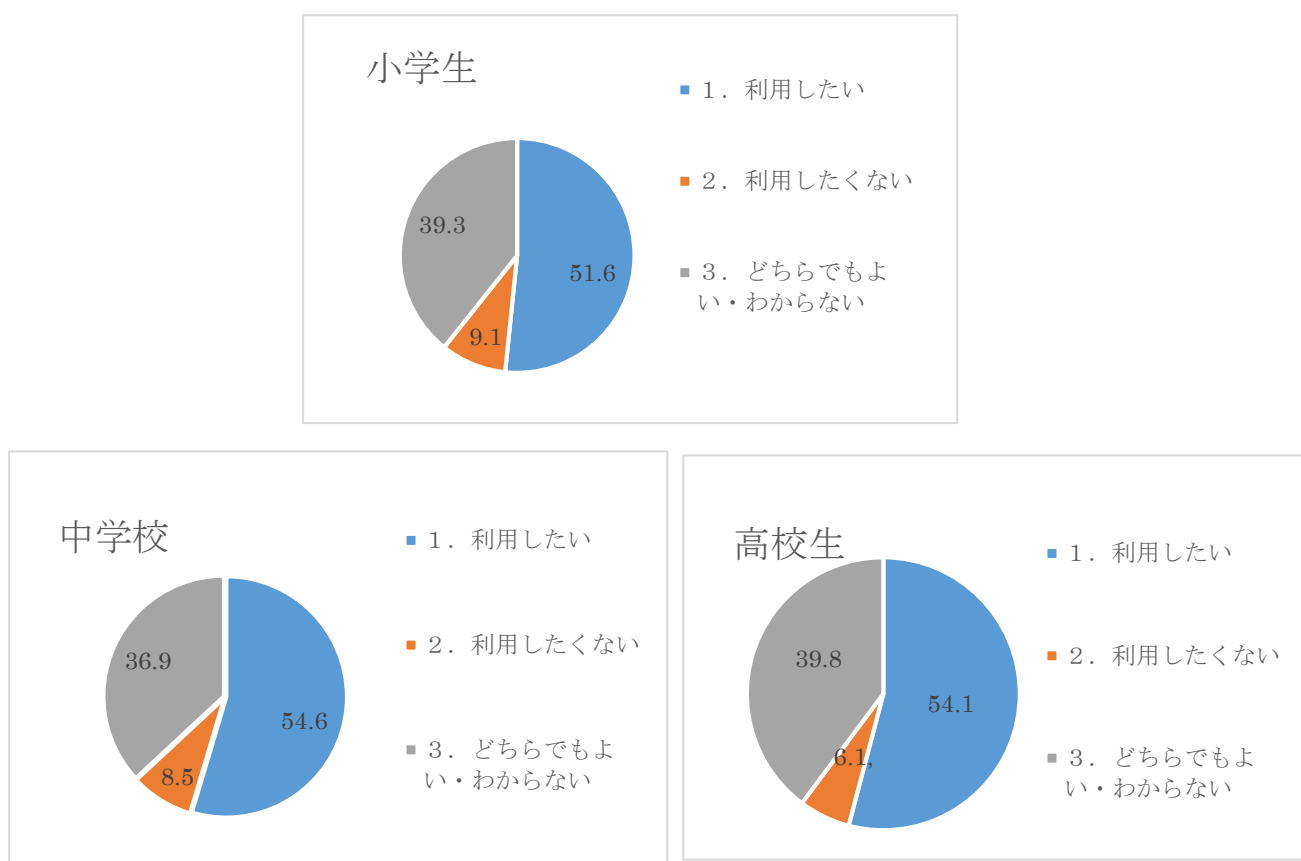
自身や家庭のパソコンやタブレット、スマートフォンで本や絵本を読んだ経験の割合は、小学生 34.7%、中学生 54.0%、高校生 63.2%となっており、中学・高校生では5割を超えている。

また、自身や家庭のパソコンやタブレット、スマートフォンで電子書籍が無料で読めたら利用したいと回答した割合は、小学生 51.6%、中学生 54.6%、高校生 54.1%であった。

●電子書籍の利用経験(%)〈本調査の回答者全員が対象〉



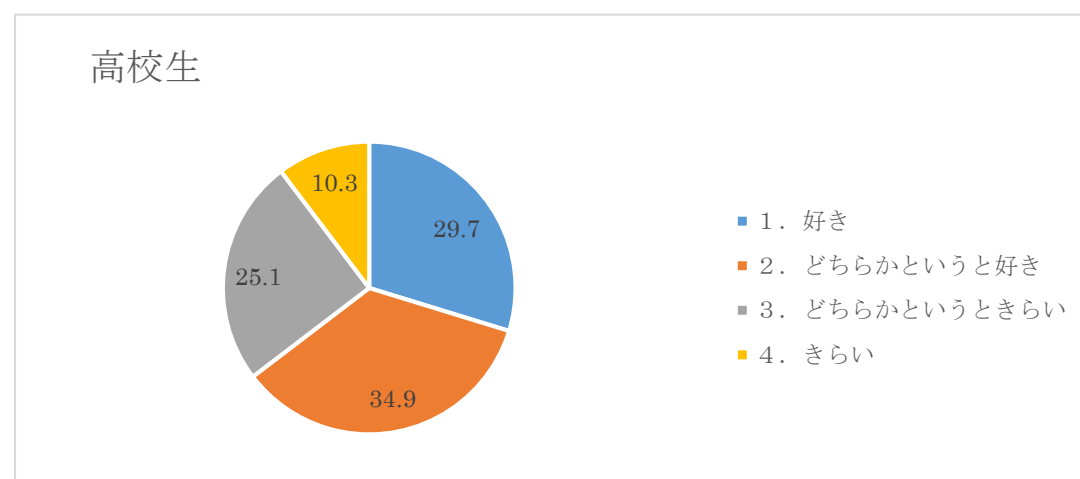
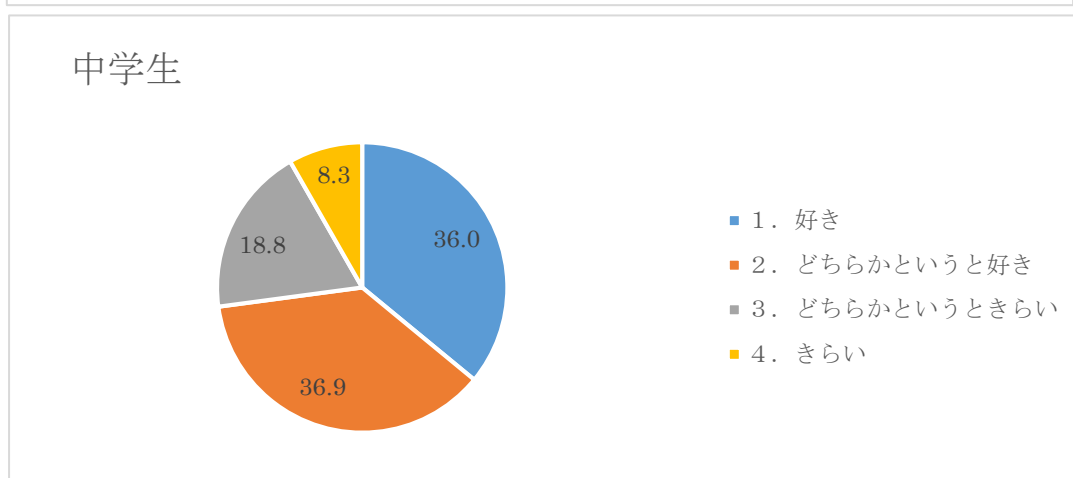
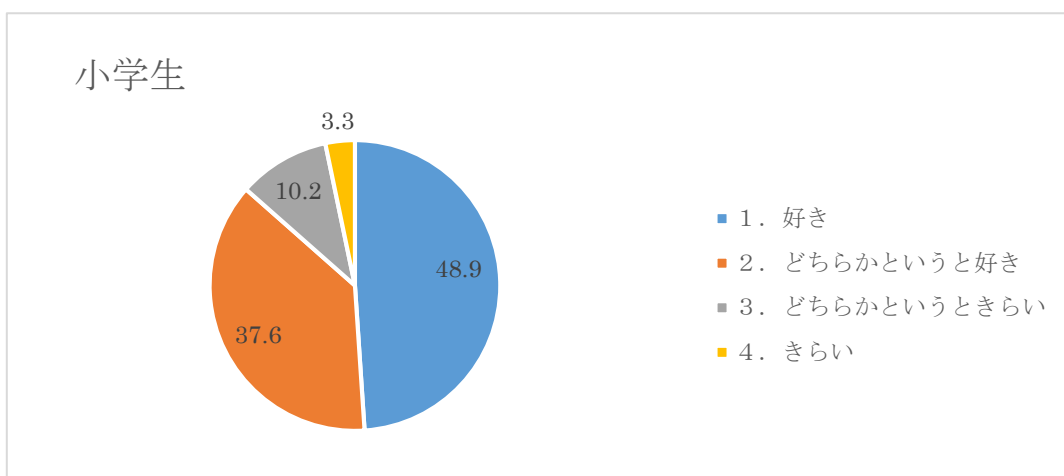
●電子図書館のニーズ(%)〈本調査の回答者全員が対象〉



2 読書の意識

読書（マンガ、新聞、雑誌を除く。）が「好き、どちらかという好き」と答えた割合は小学生 86.5%、中学生 72.9%、高校生 64.6%であった。

● 読書が好き、嫌いな割合（%）〈本調査の全員が回答〉

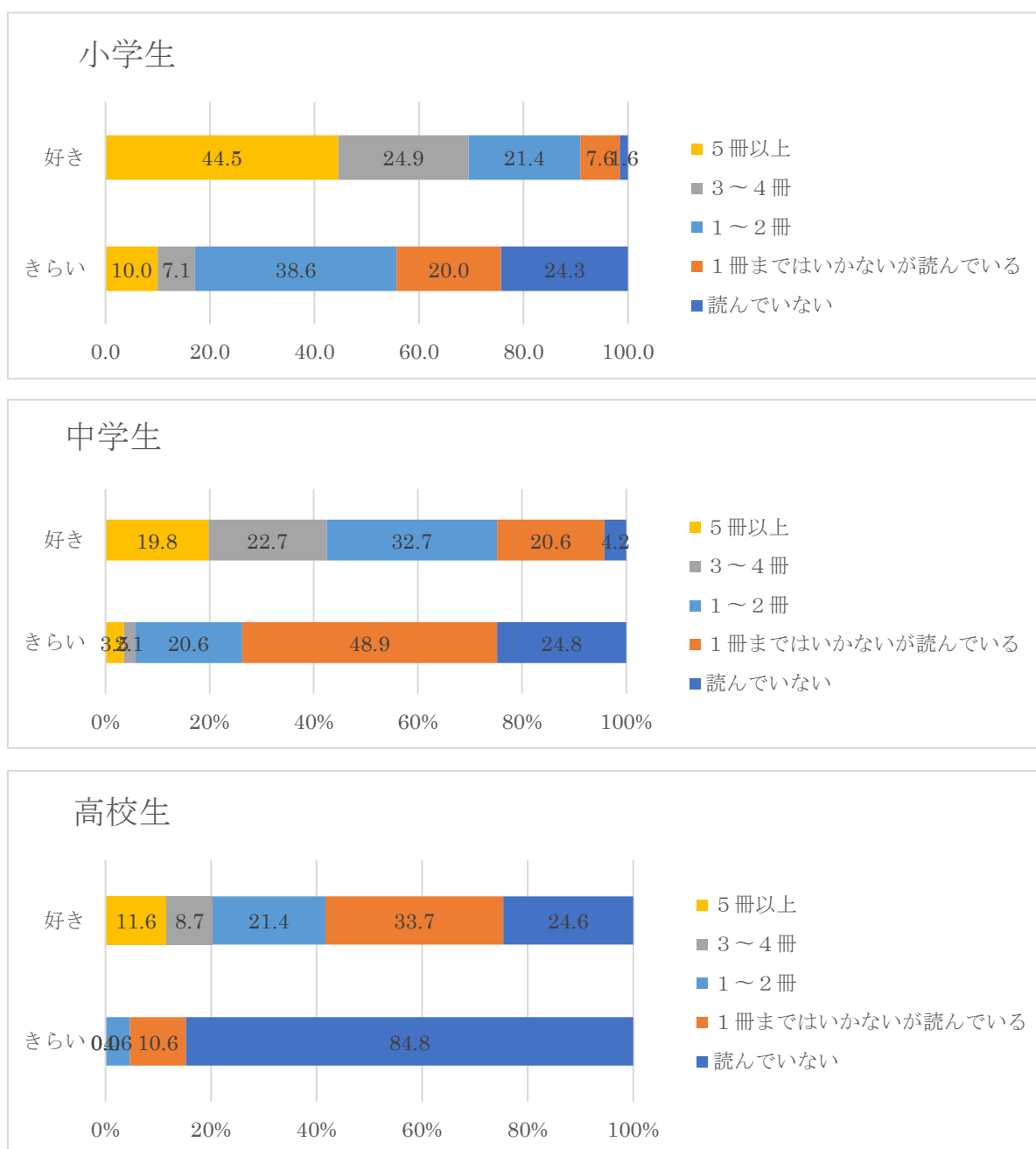


① 読書の好き、嫌いに見た読書率

読書(マンガ、新聞、雑誌を除く。)が「好き」、「どちらかという好き」と回答したうち、直近1カ月に読書をした割合は、小学生98.4%、中学生95.8%、高校生75.4%である。

一方、「どちらかという嫌い」「嫌い」では、小学生75.7%、中学生75.2%、高校生15.2%となっており、特に高校生において、「好き」「嫌い」で読書率に顕著に差が表れている。

●読書好き・嫌いに見た読書率(マンガ、新聞、雑誌を除く)(%)

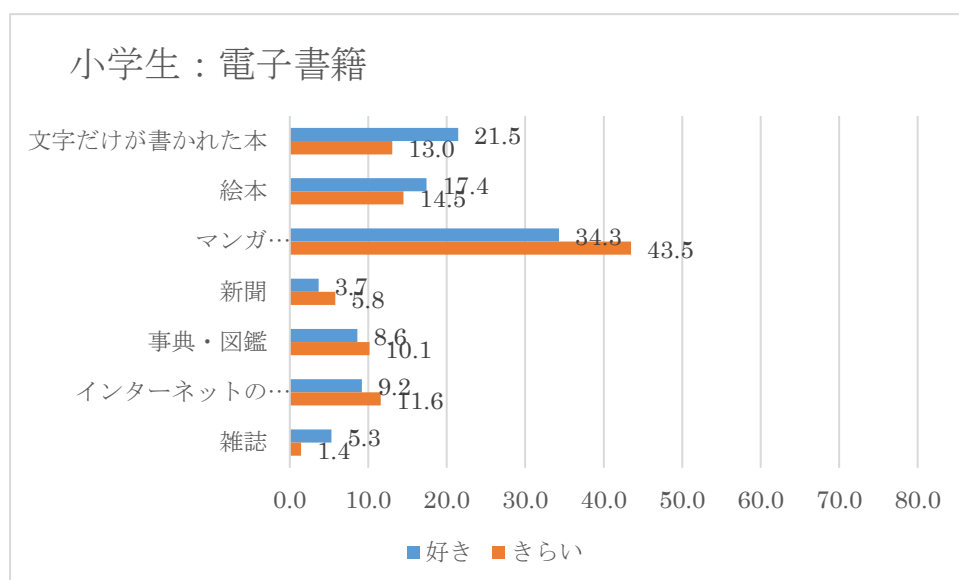
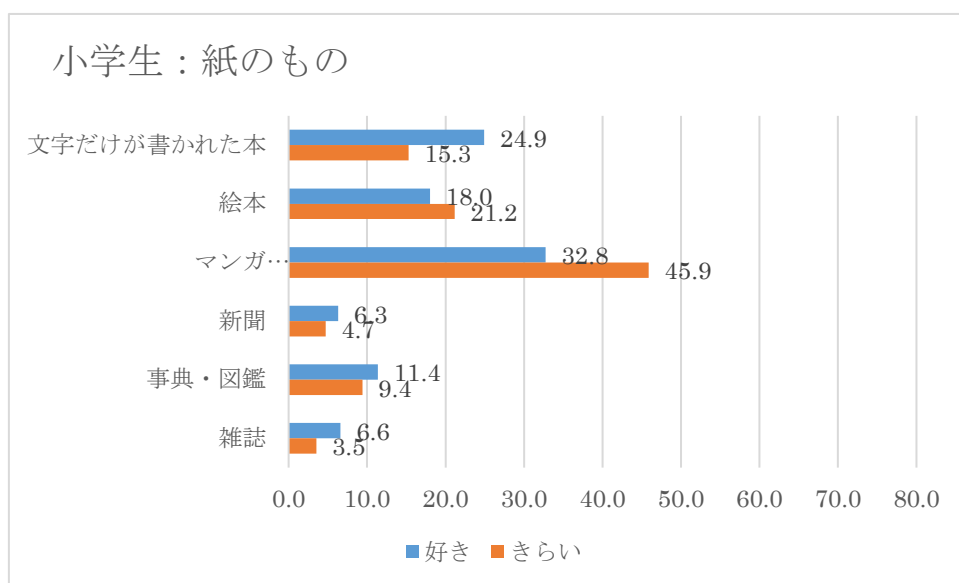


② 読書の好き・嫌いに見た読書の傾向

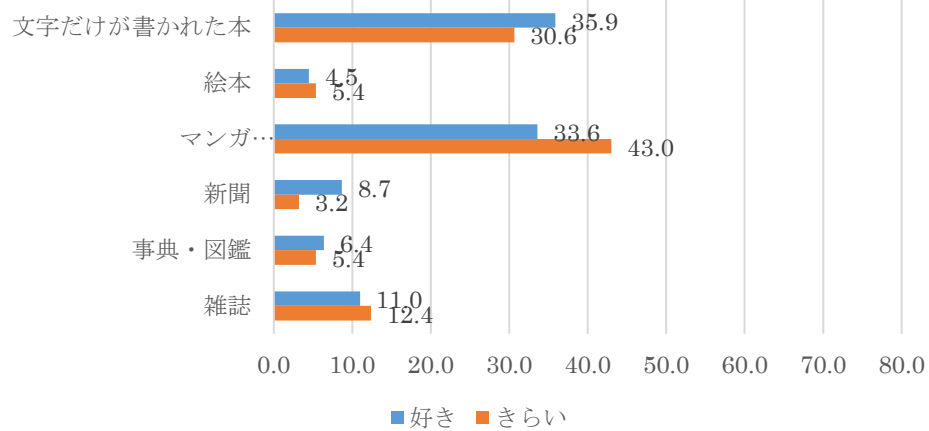
電子書籍では、小・中学生、高校生に共通して、読書の好き・嫌いに関わらず、一番読まれているのはマンガである。

紙の書籍でも同様の傾向はあるが、唯一、読書が「好き」「どちらかというが好き」と答えた中学生においては、マンガより文字だけが書かれた本が読まれる割合が高くなっている。

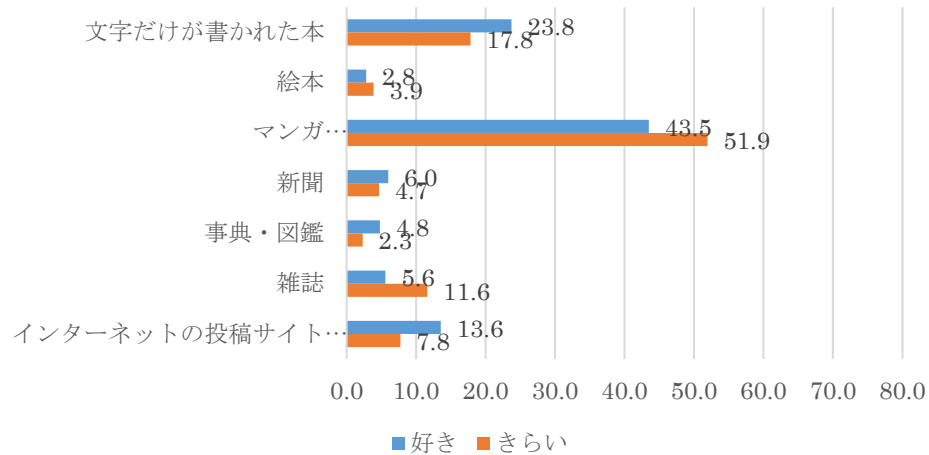
● 読書好き・嫌いに見た読書の傾向(マンガ、新聞、雑誌を含む。)(%)〈複数回答〉



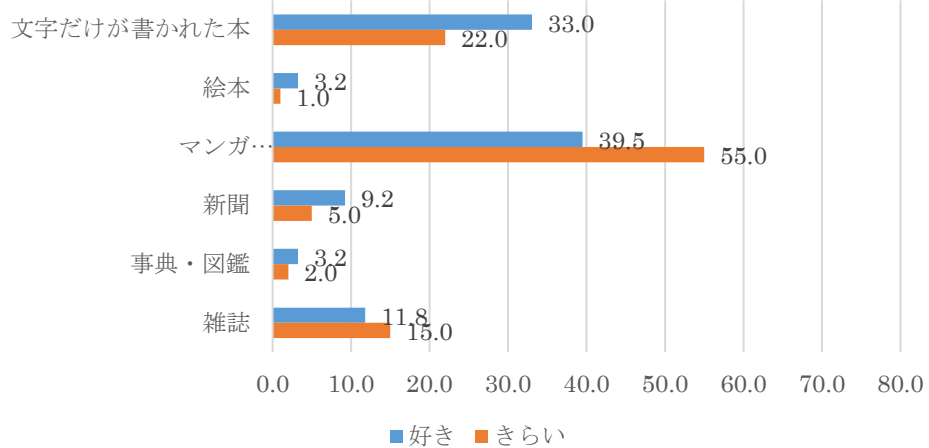
中学生：紙のもの



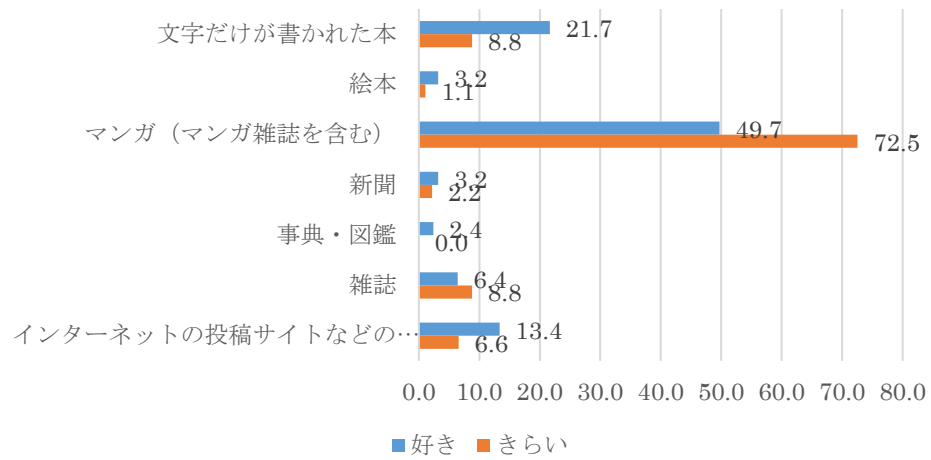
中学生：電子書籍



高校生：紙のもの



高校生：電子書籍

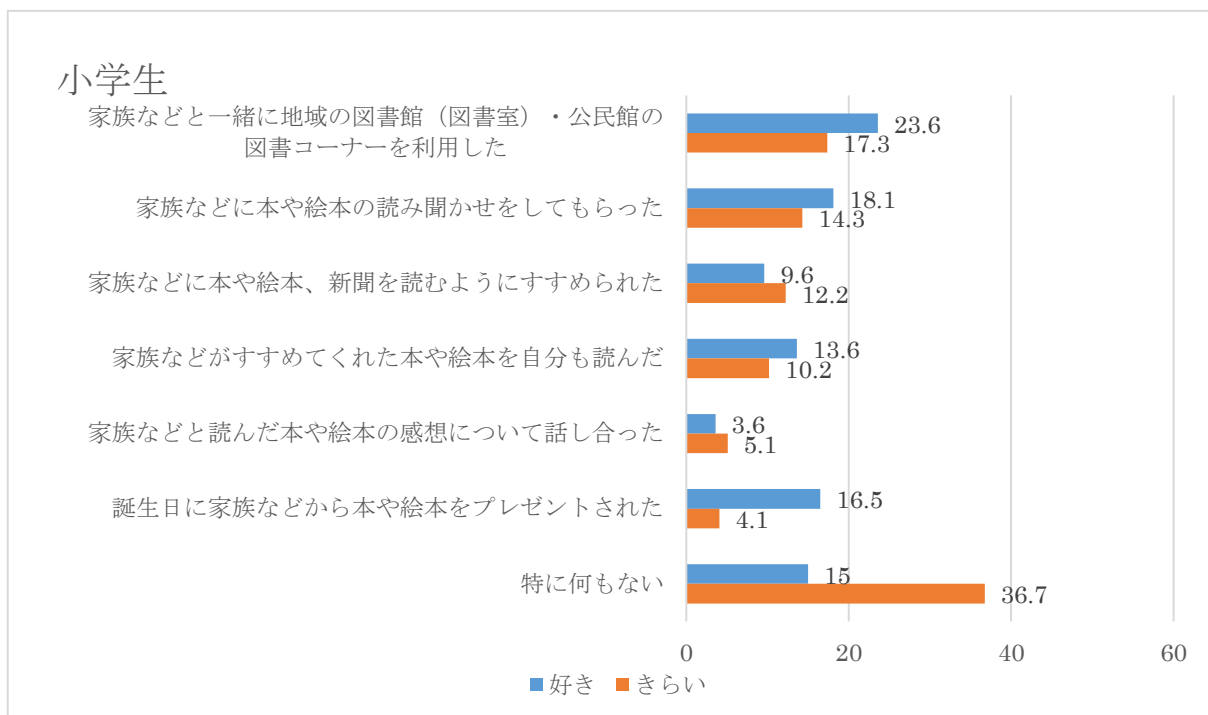


③ 読書の好き・嫌いに見た体験活動

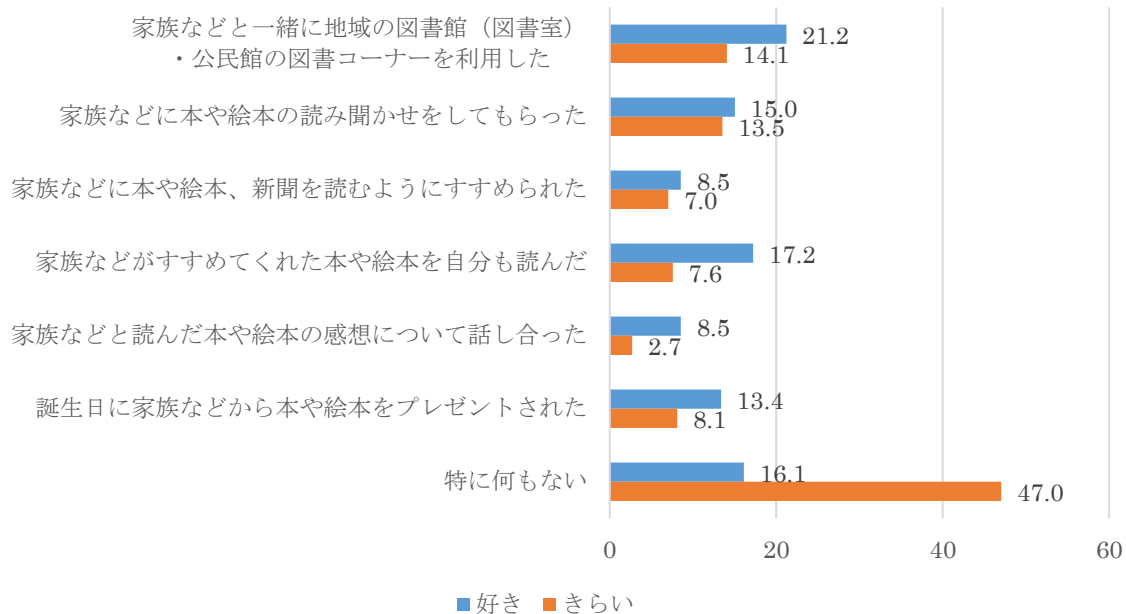
小・中学生、高校生に共通して、読書が「どちらかという嫌い」「嫌い」と答えた児童・生徒では、「好き」「どちらかという好き」と答えた児童・生徒より「特に何も無い」と答える割合が高い。

小学生では、読書が「好き」「どちらかという好き」と答えた児童・生徒より、「どちらかという嫌い」「嫌い」と答えた児童・生徒の方が、「家族などに本や絵本、新聞などを読むようにすすめられた」「家族などと読んだ本や絵本の感想について話し合った」体験があると回答した割合が高かった。

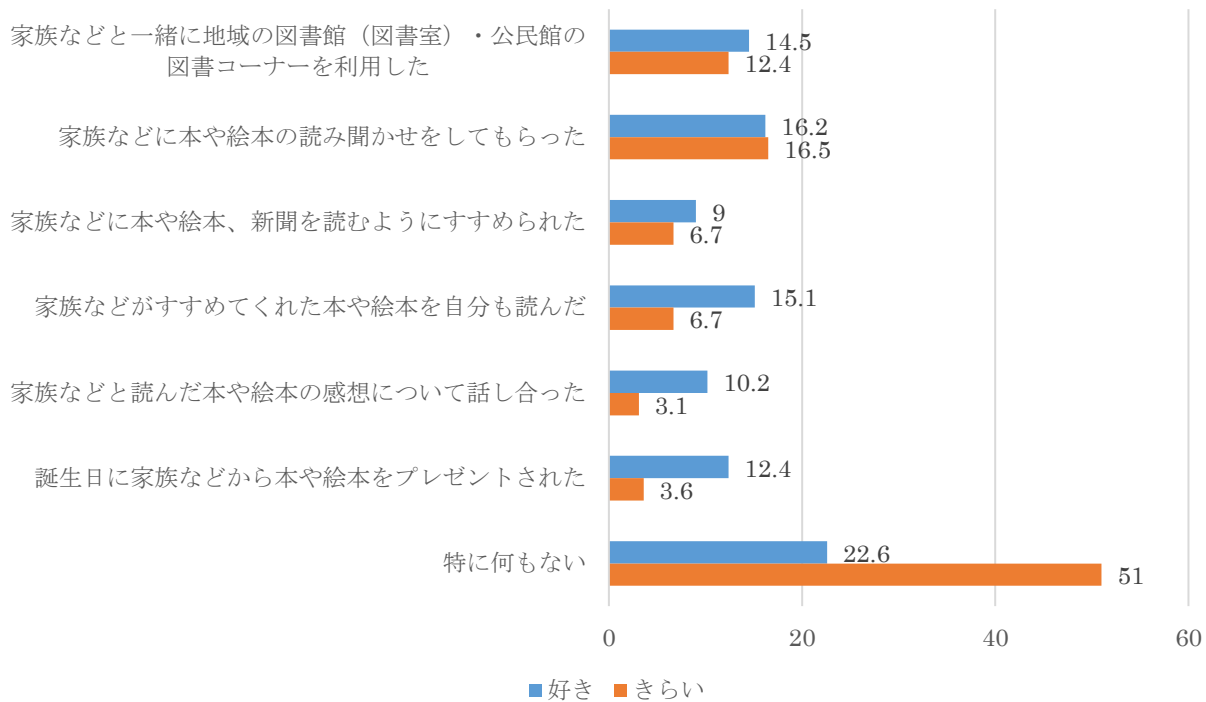
●読書（マンガ、新聞、雑誌は含まない。）の好き・嫌いに見た体験活動（%）〈複数回答〉



中学生



高校生



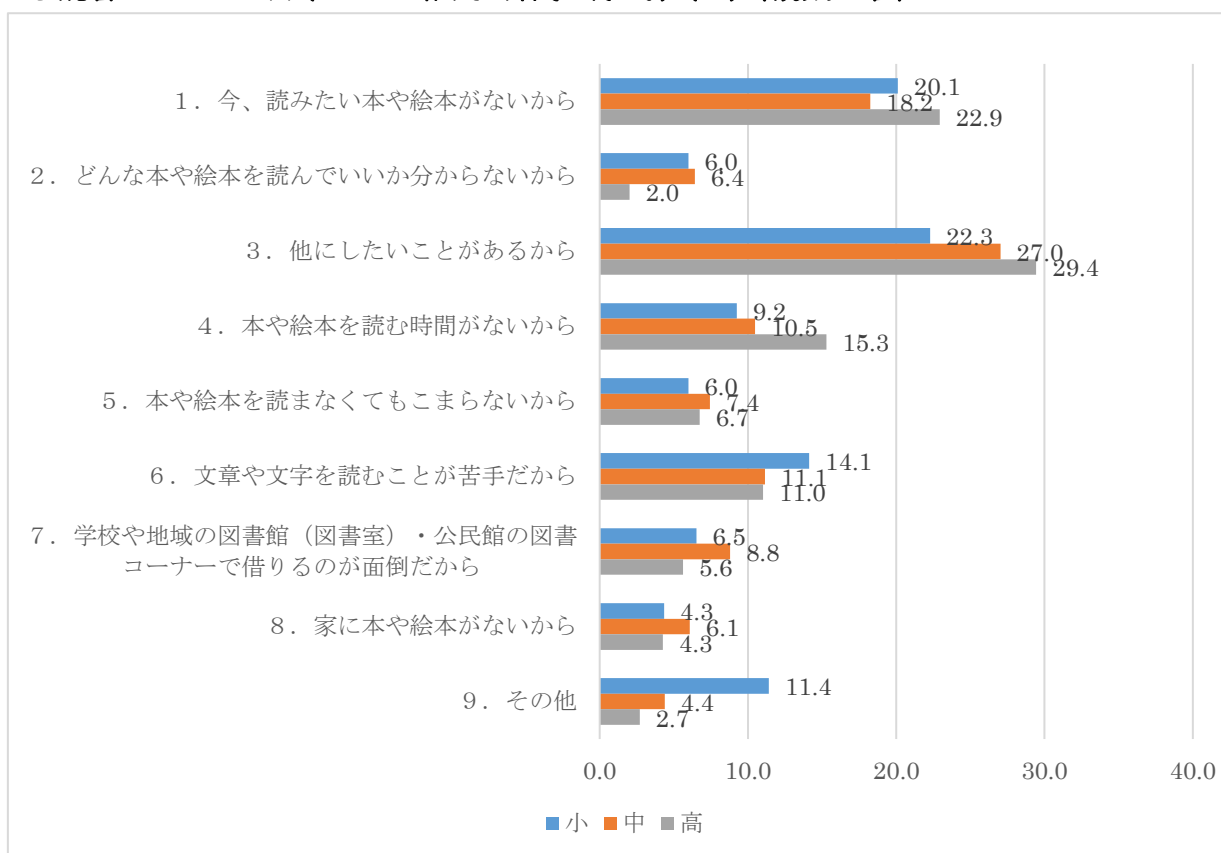
3 読書をしない理由と読書をする理由

① 読書をしない理由

直近1か月に1冊も本を読んでいない小・中学生、高校生の読書（マンガ、雑誌、新聞を除く。）をしない理由としては、共通して、「他にしたいことがあるから」、次に「今、読みたい本・絵本がないから」の順に割合が高かった。

次いで、小・中学生では、「文章や文字を読むことが苦手だから」、高校生では「本や絵本を読む時間がないから」という理由になっている。

●読書をしない理由（マンガ・雑誌・新聞を除く。）（%）〈複数回答〉



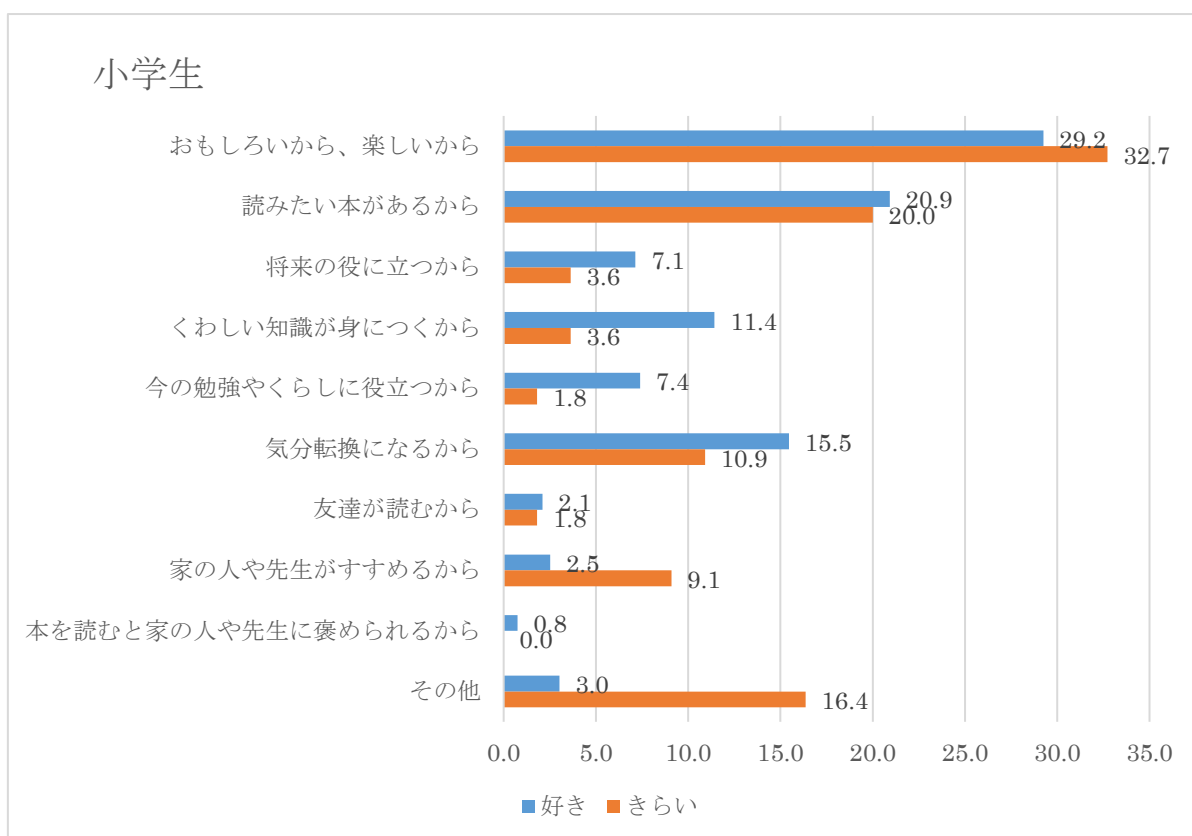
② 読書の好き嫌いに見た読書をする理由

小・中学生、高校生に共通して、読書が好きか嫌いかに関わらず、「おもしろいから・楽しいから」「読みたい本があるから」と答えた割合が高い。

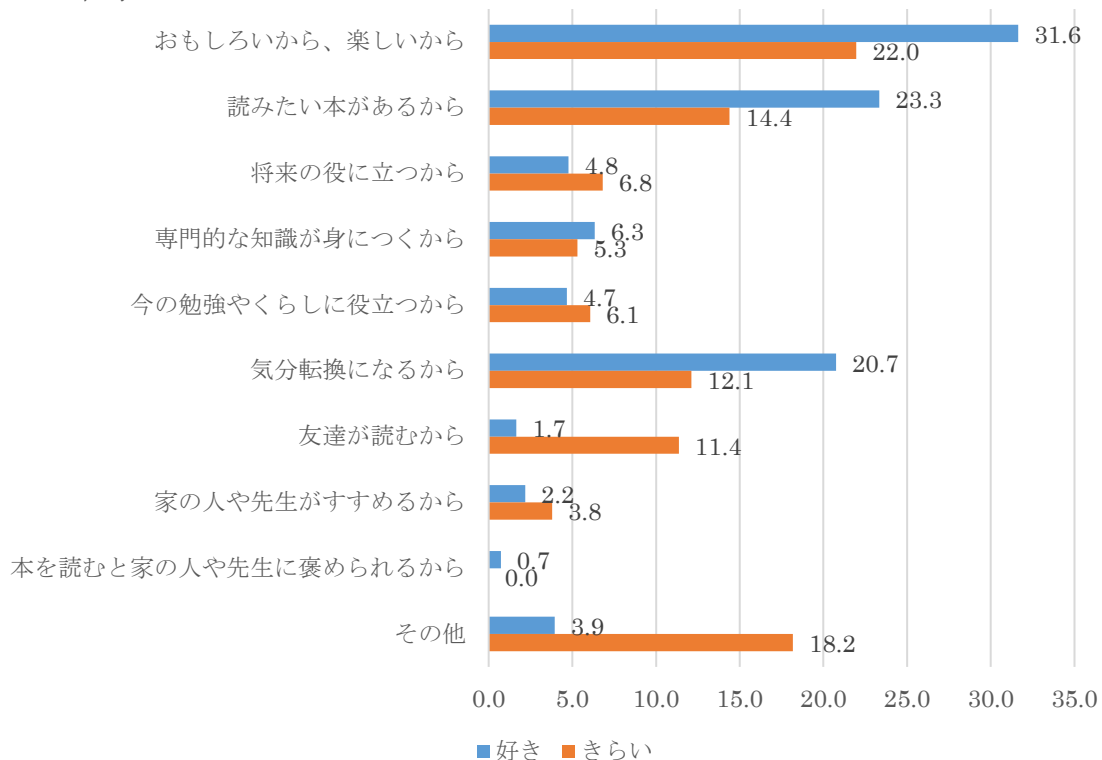
小学生では、「将来の役に立つから」「くわしい知識が身につくから」「今の勉強やぐらしに役立つから」と回答する割合が、読書嫌いは読書好きに比べて顕著に低く、逆に、「家の人や先生がすすめるから」と回答する割合は読書嫌いの方が顕著に高かった。

また、中学生では、「友達が読むから」と回答する割合が、読書嫌いは読書好きに比べて顕著に高いという傾向が見られた。

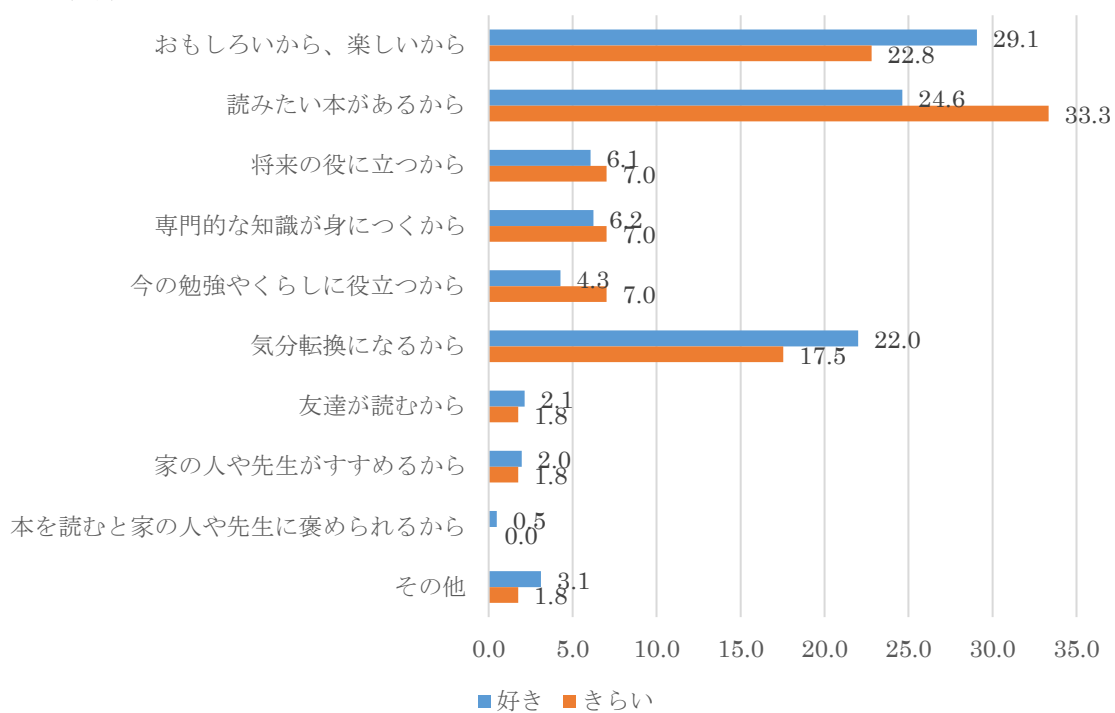
●読書好き・嫌いに見た読書の理由(マンガ、新聞、雑誌は含まない。)(%)〈複数回答〉



中学生



高校生



【 参考 】

1 読書の環境

⑥電子書籍の利用経験と電子図書館への印象の関係

令和3年度 スマートフォン等の利用に関する実態調査の結果について

(岡山県教育庁人権教育・生徒指導課)

自分のスマホを持っている割合 (%)

	R1	R2	R3	対 R2 増減
小学生	37.0	42.0	44.9	+2.9
中学生	64.1	71.8	75.3	+3.5
高校生	98.7	99.0	99.5	+0.5

学年別のスマホ所持率 (R3)

小学生	4 年生	5 年生	6 年生
	39.7	43.7	51.0
中学生	1 年生	2 年生	3 年生
	70.9	75.9	79.1
高校生	1 年生	2 年生	3 年生
	99.8	99.4	99.3

スマホやパソコン、タブレットの学習での利用率 (%)

	学習で分からないことを調べる	学習塾等の授業	学習ソフトや学習アプリを活用	外国語のリスニングに活用	動画でスポーツや楽器の実技を見る	友人等と学習について情報交換	読書 (マンガを除く)	その他	対象数 : 人
小学生	60.0	9.4	25.9	10.2	24.5	5.6	9.4	16.3	1,610
中学生	75.1	8.9	20.7	12.7	32.1	23.6	9.4	7.6	1,813
高校生	85.9	4.1	21.2	12.5	25.3	26.4	7.2	4.0	1,152

2 読書の意識関係

令和4年度 文部科学省・国立教育政策研究所 全国学力・学習状況調査

(小学校調査・中学校調査)

読書が好き・嫌いな割合 (%)

		好き	どちらかというが好き	どちらかという嫌い	嫌い	その他	無回答
小学校	岡山県 (公立) n=15,298	45.9	30.8	14.3	8.7	0.1	0.1
	全国 (公立)	41.9	31.2	16.4	10	0.1	0.1
中学校	岡山県 (公立) =14,564	40.5	30	17.4	11.9	0	0.1
	全国 (公立)	37.9	30.3	18.5	13.2	0	0.1